

公益社団法人日本技術士会九州本部 県支部防災活動紹介

【大分県】

『実行性のある避難行動を確保するために』

大分県支部の会員が大分県砂防ボランティアとして、大分県が取り組む「土砂災害避難促進アクションプログラム」に参加しています。

県職員、市職員と共に地域に出向き、**地域の防災リテラシーの向上**を目指しています。

◎具体的な取り組み

○ハザードマップの再点検

- ・土砂災害防災講座の開催
- ・危険箇所の把握
- ・要配慮者の確認
- ・一次避難場所、避難経路の確認

○まち歩き

- ・現地確認
- ・確認事項のハザードマップへの追記

○地区タイムライン作成

- ・自主防災組織等において『いつ』、『誰が』、『何を』行うかを時系列で整理した行動計画を作成

○避難訓練

- ・ハザードマップやタイムラインを活用した避難訓練実施
- ・課題や不備などを改善



写真は「大分県砂防課」提供

【大分県】

『大分大学の学生に各士業の防災・減災への取り組みを説明』

県内建設関連の若手技術者で組織する「**士(サムライ)おおいた**」が令和4年7月13日、大分大学減災・復興デザイン教育研究センター次長の鶴成教授の講義「減災化学Ⅰ 防災・減災を支える技術と人材」で学生たちへ仕事の内容、各士業の防災・減災への取り組みなどを説明。今回で4回目。

学生からは、「ハザードマップの作製など、市民の生活を守るために士業が活躍していることを知り、身近に感じた」などの感想が寄せられた。



「士(サムライ)おおいた」

県内の建設に係る専門資格を有する若手技術者が、相互に連携を深めながら、迫りくる大災害から、県土と県民を守るため、研鑽する会。技術士会大分県支部青年部員(45歳以下)が合流している。

参加士業：技術士・測量士・コンクリート診断士・建築士・地質調査技士・土木施工管理技士・土地家屋調査士